

深山和紙ができるまで

紙すきの下準備



楮はぎ(皮をはぐ)



楮ふかし(柔らかくする)

原料の刈取り・調整



楮きざみ(約80cm)



原料木 楮(こうぞ)の刈取

紙すきの下準備



楮洗い(不純物を流す)



紙打ち(繊維を細かくする)



楮ねり(煮る)



黒皮干し、白皮干し
(乾燥・寒風ざらし)

仕上げ



乾燥



紙つけ(はがして貼付)



押しかけ(水分を切る)



紙すき

紙すき



ショップ 9:00~17:00
紙すき体験 10:00~16:00 (1週間前まで予約)
定休日 火・木

お問い合わせ : 深山和紙振興研究センター Tel,0238-85-3426

文化の伝承

深山和紙

みやま

山形県無形文化財



地域で伝統を守る

四百五十年前程に始まったとされる深山和紙。クワ科の落葉低木の楮（こうぞ）を原料とする手すきの和紙である。

強靱さを誇り、風雨にさらせばさらすほど白く美しさを増し、かつては上杉藩の御用紙としても用いられた。昭和53年には、

県の無形文化財に指定されている。

40年前には50戸の農家で生産されていた深山和紙も現在は2戸が残るまで激減し、個々の努力では伝統を守ることも難しくなっている。深山の協議会では、営農部が中心となって耕作放棄地に楮を植え、集落をあげて生産が続けられている。

深山和紙振興研究センターでは、この伝統が守られ、深山和紙を製造、販売しているほか、手すき和紙の体験や和紙絵のづくりなどが体験できる。



原料の楮（こうぞ）を手に持つ
深山和紙職人 高橋恵さん